

1983年6月25日

談話会通信 No.42

談話室 2
 信号系 5
 決算報告 7
 合宿案内 8

東京蜘蛛談話会

早くツユが明けまいかな。とツユ入したばかりの空を見上げる。ツユ休みをしている間に113んなワモが育ってしまう。今年は今でもさしてゴミクモの産卵でも見てみたいものですね。

新入会員

新海 明 〒185 東京都国分寺市本多1-6-6
 牧 孝匡 〒157 東京都世田谷区上祖師ヶ谷1-31-19

住所変更

日下部 光代 〒215 神奈川県川崎市麻生区白山4-1-2-112
 長島 忠美 〒100-21 東京都小笠原村父島清瀬職員住宅3-206 性原村父島2-2161
 堀越 雅弘 〒420 静岡県静岡市瀬名川253
 大井 昌久 〒236 神奈川県横浜市金沢区富岡町126 シ-サイド・J-ボ M-105

観察・採集会のお知らせ

問い合わせ連絡は事務局 加藤輝代子
 まで

日. 5月15日・7月24日・10月16日・1984年2月19日の日曜日

場所: 五日市 広徳寺周辺

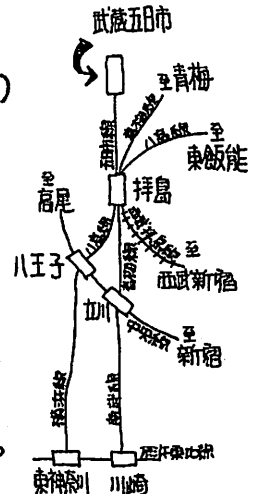
集合場所と時間: 武蔵五日市駅前(国鉄五日市線)

午前 10時(雨天決行)

(立川発 9:05・9:16の直通を御利用下さい。新宿始発 8:48 直通"特快あきがわ号[10両のうち後3両]"がたいてい便利です。)

5月には帰り間ぎわに雨に降られてしまいました。カケをお忘れなく。お弁当も **広徳寺までの地図**は p. 4

夏合宿(7月29日~31日)のお知らせは p. 8です。



談話室

みなさんのおたよりおまちしています。

▶ 佐藤幸子さんより

談話会通信 No.23 (1978.7.) の 2 頁目に ▶ さてこの問題は…… という見出しで 4 つの問題があげられています。その中に『3.ウモの中 には未受精卵を食べるものがあるの ではないか? (ウツキコモリグモ・ハリゲコモリグモ・カガリビコモリグモ・イオウイロハシリグモ・オオハエトリ……その他のウモで確認したというが?)』というのがありました。

あれから随分と年月が過ぎました。その間に観察した卵ノウと、その親グモについて一言。

ナニワナンキングモ(コサラグモ科)については四世代分の未受精卵を見てきましたが、どの親もこれをたべませんでした。スソグロカラグモ(サラグモ科)については三世代分の未受精卵を見てきましたが、これをたべられませんでした。ただし本種の場合交尾後初産で、同居中の雄と共にせっかく産んだ卵をたべてしまった雌がいました。最初シート網の下側に産座を作った雌は、何か感ちがいをしたのが産座に隣接して網直接に卵を産みつけたのです。そして卵塊の片側表面を糸で被う作業

を始めました。網に直接付着した卵塊は反対側から丸見えで、卵は 3 個ありました。するとどうして知ったのが同居中の雄がスルスルと昇ってきて、おき出しになった卵をたべ始めました。産のない卵ノウを作り上げた雌は、雄に気がついて追いはらったのですが、次に自分自身で卵をたべ始めました。雌が卵ノウから離れた時、3 個あった卵の内 2 個はカウだけになっていました。(残った卵 1 個はいつまでたってもフ化しませんでした。)

この問題はばかりでなく、他の 1, 2, 4. に関係した観察及び考察がありましたら是非お知らせ下さい。

通信 23 号 ▶ さてこの問題は……

これは 1978 年 7 月 15 日に 藍嶋先生のお宅で行なった勉強会の席上、皆で問題提起したもので、当日参加した鈴木勝浩さんより投稿のあったものです。ここで今一度 1~4 を再録し、今回の佐藤さんをはじめ会員の皆様にお意見をいただきたく思います。

1. ハツリグモはどのように枯れ葉のみをつるしているのでしょうか? 青葉では都合悪いのだろうか? 青葉しかなければ使うだろうか。(青葉をつるしている所を見た人がいなかった)
2. アリグモ *etc* は生葉の表面に卵のうをほとんどつくるが why? (葉のうらをつかうグモ、おもて

▶千国安之輔さんの著書が出版されました

『クモの一生』 信成社 観察の本8
定価 1400円

ショロウグモを題材にクモの一生をわかりやすく、美しい写真も豊富に使って解明したもので、子供から研究者まで読みごたえのある必読書。産卵から成長交尾までのほか、脱皮回数の実験・ほかのクモの一生についても述べてある。これからの生態観察の指標ともなる一冊といえよう。50年にわたる観察・研究の集大成、という言葉がうけがけます。(K.K)

●あとがき

千国安之輔

ジョロウグモの産卵生態を観察した少年と、その弟妹が、クモは、いつ、どのようにふ化して、どんな生活をするのかに興味をもち、ジョロウグモの一生の、さまざまな生態を追究していくというのが、この本のテーマです。

これは、生活史が複雑な各種のクモの中から、もつとも身近にいて、わりに観察の容易なジョロウグモをえらび、わたしが一人の少年になりかわって、その生活史の観察活動を物語風にまとめたものです。

さきに刊行した「クモの親と子」「クモたちの狩り(上・下)」の、種族保持と個体維持の面をあつかったものの続編となるものです。

日ごろ、なにげなく見すごしているクモの生態でも、その裏にひそむ生命の神秘的な事実をあばくことよって展開される驚異・感動・発見の喜びなどは、子どもたちの、自然に対する疑問や好奇心を誘発して、科学的な追究心を発展させる原動力になるものだと思います。

少年たちの研究活動やクモの生態をドラマ化したのは、自然観察をする子どもたちに、経験科学の立場での問題解決の手順・方法や、科学的なものの見方・考え方・処理のしかたなどが具体的に理解され、それが身について育っていくことを願うからです。また、連続写真を多く使ったのは、内容をわかりやすくすることのほかに、観察や実験の正確さと精密さを、たいせつにしてほしいためです。

この本が、自然観察に興味をもつ子どもたちのための、よい手引きとなり、多くの子どもたちの、自然に対する科学的な追究活動の心をやしなない、その態度形成に役立つならば、わたしは、たいへんうれしいと思います。

きつかりモ、それをいいるが…)

4. コカネダモのかくれ帯の問題

バックが暗いとかくれ帯をつくらない？ 雨の降る日には網を張りかえな。 (午前4時に必ず張りかえるのに雨の降る日は張りかえな… 天気予知につかえるのでは)

以上です。5年目にして一つの意見が返ってきました。これからも気を長く持って皆様からの意見をお待ちしています。

また、このような疑問などもありましたらどうぞ投稿して下さい。

(編集)

横浜の井と房枝弘判

いちぢきました。
 ← 神奈川県新聞
 58年3月27日付
 創会者有馬一平さんのホンチとババの話を聞いて、小学生の頃や、ちこの遊びを存つかしく思っていたら、まだまだ忘れずにいる人たちがいるのだな、と思わせる記事が目にきました。テレビも雑誌も新聞も世の中に蔓延していきながら、再びこの遊びが子供たちから、今度は大人たちの間まで

「ホンチ保存会長」

佐藤 芳夫さん
 横浜に古くから伝わる子ども遊びの「ホンチ」。残念ながら消えつつありますが、三十五歳以上のハマッ子ならはたれでもなつかしく思うでしょうね」と語る佐藤芳夫さん(58)は、保土ヶ谷区上菅田町一五〇〇、笹山団地一四二〇五〇は、ホンチ保存会長を自称する。
 ホンチは、ハエトリソモの一種。箱の中で二匹のホンチを闘わせる遊びは、金魚でも飼ったという。シーズンは四月から六月初め。今でもお彼岸が過ぎるまでワンワンと鳴いて遊ぶ。

昭和58年(1983年)4月6日 水曜日 (12)

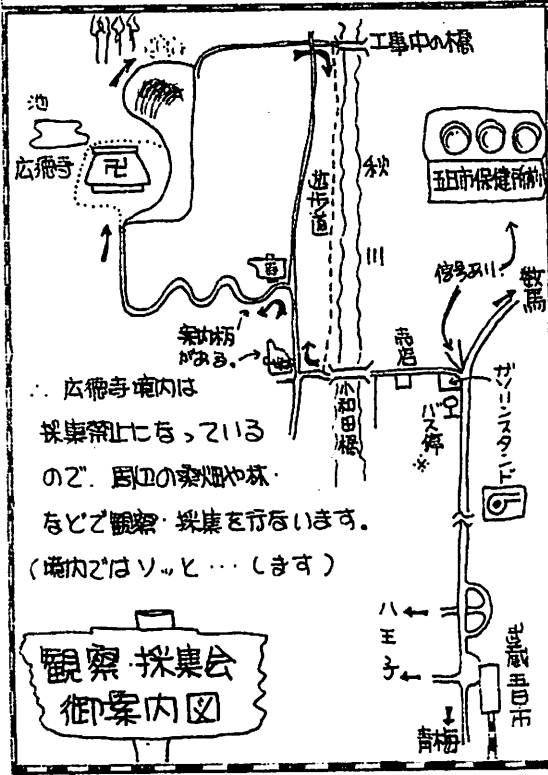
やることを夢みています。そのうち雑誌でも書いてみたいかな。(K.K)

ホンチ箱の思い出

都市化が奪う自然の遊び

神奈川県新聞三月二十七日付の「ひと東西南北」に面白い記事が載っていた。「ホンチ保存会長」の佐藤氏の紹介である。私も昭和三十年代まではホンチ(和名はネコハエトリ)といふコモの一種に夢中になった一人である。小さいながらも精かんな遊び、敬しよつな動きに心をぎめて、野山をうろついたものだ。当時の駄菓子屋には「ホンチ箱」と称する小箱が売られていた。一室のもの、三室のもの、最も需要の多かった六室のものまである。私たちが六室のものを改良し、ガラスふたをつけ、中の状態がいつでも見えるように工夫したものだ。そしてその中に一室に、ホンチを二匹入れて闘わすわけだ。

こうして遊びが横浜からな



学習塾へ次々と追いやられ始めた。現在、自然に接したくても、子供たちの周りは時間的・条件的条件が劣悪な状態に陥っている。子供たちの精神面での荒廃が言われ出しているから久しいが、都市化がもたらした一つの問題として、とらえる事が出来そう。

(横浜市南区南太田町 教員 戸沢一郎 35)

※バス停 上町(五反田駅より3分) 駅一馬町・五反田・上町) 十聖木・上巻・比叡川橋・川岩・数馬行 90分
 武蔵五反田駅前10時集合です。遅れる方は左の図を参考に現地(広徳寺)に来て下さい。

信号系

▶ 総会・例会の報告

4月17日、目黒大橋区民会館で行なわれました総会例会の報告をします。まずは例会、予定よりちょっと早目に皆様が集まり、おため10時15分開会。松本誠治さんの開会のあいさつに始まり、嶋田順一さんの司会で次々と発表が行なわれました。(発表の内容は次号のKISHIDAIAに掲載されますのでくわしくはもうぐしお待ち下さい。)

- | | |
|------------------------------|---|
| ① 例会・総会プログラム | ② |
| 1. トリノフンダマシ類の越冬の観察 …… 加藤輝代子他 | |
| 2. ムラクモヒシガタグモの生態 …… 池田博明 | |
| 3. 最近撮れた秘蔵の写真 …… 高橋登 | |
| 4. ネコハエトリの民俗と習性 …… 青藤 煥一郎 | |
| 昼 食 | |
| 総 会 | |
| 5. ホシミドリヒメグモの越冬について …… 井上房枝他 | |
| 6. コサラグモ類の生態 …… 佐藤 幸子 | |
| 近況報告・自由談話
(Coffee Break) | |

参加費
500円

- | | |
|---------------|---------|
| 参加された皆様 (敬称略) | |
| 浅間 茂 | 青藤 煥一郎 |
| 池田 博明 | 青藤 博 |
| 井上 房枝 | 佐藤 幸子 |
| 梅林 カ | 高橋 登 |
| *大味 聡 | *竹内 桂子 |
| 小澤 實樹 | 連沼 克己 |
| 加藤 輝代子 | 林 俊夫 |
| 日下部 光代 | *藤田 勝 |
| 熊田 豊一 | 古沢 隆 |
| 小池 牧子 | 松浦 祐司 |
| 近藤 恭子 | 松本 誠治 |
| 嶋田 順一 | 山本 一博 |
| *清水 高男 | *は会費外の方 |

今回の発表の中で、青藤煥一郎さんのネコハエトリの話は、千葉や神奈川の一部で行なわれていたホンチとババについての話も含まれ、珍しいホンチ箱の回覧もありました。また競いの描写など思わず笑ってしまうほど楽しいものでした。今まで話しかか聞いていなかった人も初めて聞いた人も一日にしてホンチとババについて分かってしまった感がありました。そのうち談話会主催のりも合戦が行なわれるかも。(ネコハエトリにアジロウケツとがキンケツ・アカツツというのがあること、知ってました？ …… 次回KISHIDAIAを乞御期待) 発表後の近況報告・自由談話では、コーヒーを飲みながら自己紹介や話の花が咲きました。その中で青藤煥一郎さんはコサラグモの方言と植物のイヌノフグリを探しているとのこととか、林俊夫さんは赤城山の調査

とフクログモ・ワシグモの研究をしており、フクログモ・ワシグモを集めているので協力を!! 有藤博さんからはズダカヌカグモが記載以来は初めて埼玉赤沼で採集・セシジアカムシグモは本当に一種か・ズキンヌカグモは四種ぐらいまで"っているのでは"という話がありました。

また、現在兵庫教育大に在学中の榊林力さんより、卒論研究の資料として送っているワシグモを送ってほしいという話がありました。ワシグモの種名がわかるものであれば幼体・成体は問題ないそうです。資料はいくらあってもいいそうです。送料等のお礼もケし存がらいたします。このお話でした。どうぞ御協力をお願いします。

ワシグモの送り先は

〒 673-14

兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学 自然棟三階

生物学教室 御中 (榊林抜)

総会

総会は昼食後 蓮沼克己さんを議長として開かれました。

事務局からの会の状況報告、編集局からのKISHIDAIAの報告、会計局からは昭和57年度決算報告と昭和58年度予算案が提出され、予算案は一部是正されて決まりました(会計だよりをごらん下さい)。次いで運営委員の改選があり、会計監査の大熊十代子氏に替って林俊夫氏が選出され、また、運営委員としては井上房

純氏が新たに選出されました。

今年度の活動計画については、すでに通信41号に発表済みでしたが、ここに改めて報告させていただきます。

会計だより -1-

会費受領報告 (敬称略)

(57年度)

片岡佐太郎	伊藤地味行	利岡 匠
内田 善晴	関下 俊英	古沢 笑子

(58年度)

藤井 靖浩	中平 清	片岡佐太郎
加村 隆英	白下都光代	佐久間良三
吉田 敬	大辻 龍源	佐々木勝一
石浜 隆	小池 牧子	小林 健一
吉倉 真	有藤博一郎	馬場 武彦
磯島 隆	長島 忠義	大野 健明
大野 正男	増原 啓一	近藤 恭子
浅岡 茂	池田 博明	山本 一博
松本 誠治	小野 展嗣	原 勝司
林 秀幸	内田 善晴	林 俊夫
新海 栄一	藤井 悦子	加藤理代子
千国安之輔		

(59年度)

石浜 隆	大和 昌久	新海 栄一
------	-------	-------

(60年度)

石浜 隆

〔御寄付〕

藍嶋 良 様 10,000円

古沢 笑子 様 200円

会計についての御意見御質問は

〒216 川崎市川崎区綱島1-14-15 高橋 登 記

TEL 044-288-2921 (夜9時~10時の間)

会計だより-2- 郵便振替口座 横浜0-1460

昭和57年度 決算報告

収入の部	367,407.-	支出の部	352,079.-
前年度繰越金	40,873	刊行物作成費 (KISHIDAIA48-49)	245,950
会費	254,000	通信費	83,230
① 前納	78,400	運営費	17,160
② 本年度納	175,600	備品費	1,200
バックナンバー売上	7,640	消耗品費	1,924
例会等繰越金	13,244	雑費	2,615
別刷代	30,350		
寄付	21,300		
		差引収支残高	15,328.-

上記の通り相違ありません。

昭和58年3月31日

会計 高橋 登 印

監査 小澤 實樹 印
林 俊夫 印

昭和58年度 予算

収入の部	収入計 326,528	支出の部	支出計 326,528
会費		刊行物作成費	212,000
① 一般 2,800×109	305,200	KISHIDAIA 100,000×2	200,000
② 学生 2,000×3	6,000	通信	3,000×4 12,000
昭和57年度繰越金	15,328	通信費	71,000
		KISHIDAIA 発送 200×2×110	44,000
		通信発送	60×2×110 13,200
		総会・例会等	40×2×110 8,800
		事務通信等	5,000
		運営費	35,000
		備品費	5,000
		消耗品費	3,528

∴ 会費納入者 一般 109名 学生 3名
は、昭和58年3月31日現在の会員数
です。

夏合宿のお知らせ

今年も夏の合宿が行なわれます。ふるって御参加下さい。

1983年 7月29日(金)～31日(日) 合宿地：箱根

宿泊地：箱根登山鉄道大平台駅前 ほそかの旅館

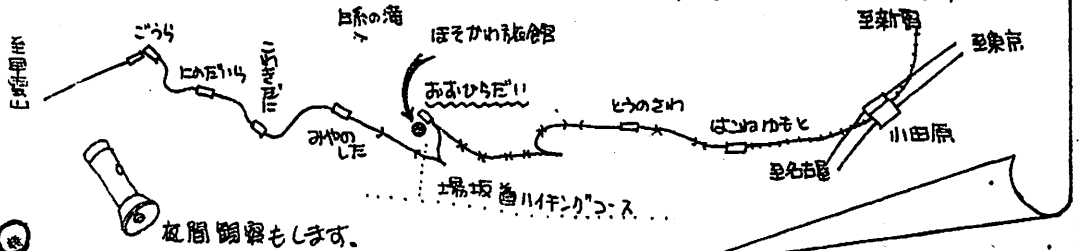
TEL：0460-2-3250

(-泊 5,200円ぐらひ)

参加申込：葉書が電話で事務局 加藤まで

申込締切：7月10日 宿泊される方は必ず申し込んで下さい。

参加される方にはのちほど日程表等をお送りいたします。
また申し込みをしないで日帰り参加される方は7月20日すぎ、
または前日に加藤もしくは熊田宛自宅か宿まで(29-30日)連絡を。



会の事務一般・会への質問などは事務局へ。会費の納入・問合せなどは会費局へ。KISHIDAIAへの投稿は編集局へ。通信への投稿などは通信編集へ。各々の住所は下記のとうりです。

- ・事務局：〒272 市川市菅野3-1-6 あすなろ荘
加藤 輝代子 0473-25-4436
- ・会計局：〒210 川崎市川崎区観音1-14-15
高橋 登 044-288-2921
- ・編集局：〒375 飯能市本町5-4
嶋田 順一 04297-3-3022
- ・通信編集：〒343-01 埼玉県北葛飾郡松伏町松伏
3385 鈴木 勝浩 0489-91-2984

現在の運営委員

井上 房枝・加藤 輝代子・嶋田 順一・國見 裕久
貞元 巳良・鈴木 勝浩・嶋田 順一・高橋 登・
遠沼 克巳・堀越 雅弘・松浦 祐司。以上11名。

雨の向う側から聞こえてくるカッ
コウの声を耳にしながら顕微鏡をの
ぞいていると、つい東京にいることを
忘れてしまいそうになる日が続いて
います。今回は担当の鈴木さんの都
合により熊田が筆を取らせてもらい
ました。談話室への皆様の声をし
じお寄せ下さい。御意見・原稿は
通信編集・もしくは事務局までお送
り下さい。



東京蜘蛛談話会

1983年 6月 25日 印刷発行

通信編集：鈴木 勝浩

本号代行：熊田 順一